



「ボランティア田んぼ」 今も交流は続いて

ボランティアと 住民の調整役を

平成28年4月14日の前震後、『自然を愛する会』が支援品の寝袋とテントを持って被災状況の把握にきました。私と同会の会員であったこともあり、すぐに駆け付けボランティア活動をを行う人を集めてくれました。

赤井区の公民館が被災したため、私の自宅敷地内にある全壊した小屋を修繕し、そこに本部を構え、ボランティア活動を開始。私と区長、地区住民の1人が要望を書き込むノートを本部に設置したり、要望を聞いて回り、ボランティアと住民の調整役を担いました。ブロック塀の撤去や家具の搬出はもちろん、多数寄せられた要望が家屋の屋根のブルーシート張り。普段、登山などアウトドアを中

心に活動する同会は、安全を確保して高所での作業ができるため、このような要望にも応えることができました。

種まきや田植えも一緒に『ボランティア田んぼ』と名付けました。この田んぼでは今も毎年田植えをしていて、収穫したコメの一部を恩返しとして同会に寄付しています。最終的に同会からは約



今も作付けを続けているボランティア田んぼ

半年間で、780人が訪れ、赤井を拠点として町内各地でボランティア活動をしてもらいました。自分たちだけではできないことを助けてくれて本当に感謝しています。

また、天草から週に2、3回マツサージヤやストレッツのボランティアが来てくれました。本部の小屋にマットを敷き、住民や他のボランティアと一緒に活動前のストレッチなどをしていたのを覚えています。

被災者をカブけた チューリップの花々

その年の11月、赤井区と肥後花市場・花商組合が、本渡ロータリークラブと町農業委員会の協力を受け、国道沿いの私の畑にチューリップを植えました。熊本地震から1年となる翌年の春には、色とりどりのチューリップが咲き、

町内各地からたくさんの方が訪れ、赤井区に活気が出ました。初めて咲いたときの感激は今でも忘れません。

以来、皆さんを勇気づけようと毎年育て、今年も赤井区に咲かせ

る予定でしたが、「自分たちだけでなく同じように悲しい思いをした被災者を勇気づけた」と思い、赤井区の住民が肥後花市場・

花商組合、自然を愛する会と協力して、昨年の豪雨で被災した人吉市と相良村に植え付けに行きました。

今年4月、チューリップが無事に花を咲かせた知らせを受けたときは、とてもうれしく思いました。また新しい場所でチューリップがたくさん人の心を癒し、勇気づけてくれることを願っています。



2019年のチューリップ畑